

霧多布湿原 (浜中町)



琵琶瀬展望台より霧多布湿原を望む

色とりどりの花が咲き競う「花の湿原」

霧多布湿原は、国内5番目の面積の広大な湿原であり、低層湿原、中層湿原、高層湿原のほか、塩生植物が生育する塩湿地など多様な自然環境に恵まれている。1986年には地元有志による「霧多布湿原ファンクラブ」が発足し、民有地を借り上げる保全活動を開始し、2000年からはこの活動を引き継いだ「霧多布湿原ナショナルトラスト」が湿原のうち開発の可能性がある民有地やタンチョウの営巣地の買い取り保全を進めているほか、自然環境調査や湿原の復元実験、湿原周辺の森づくりなどの取り組みも行われている。

長年に渡りナショナルトラスト活動が継続され、貴重な生態系の保全、再生に貢献していることに加え、1922年に国の天然記念物、1955年に道立公園、1993年に国指定鳥獣保護区に指定、1993年にラムサール条約に登録され、自然科学的な学術上の価値は国際的にも評価されている。

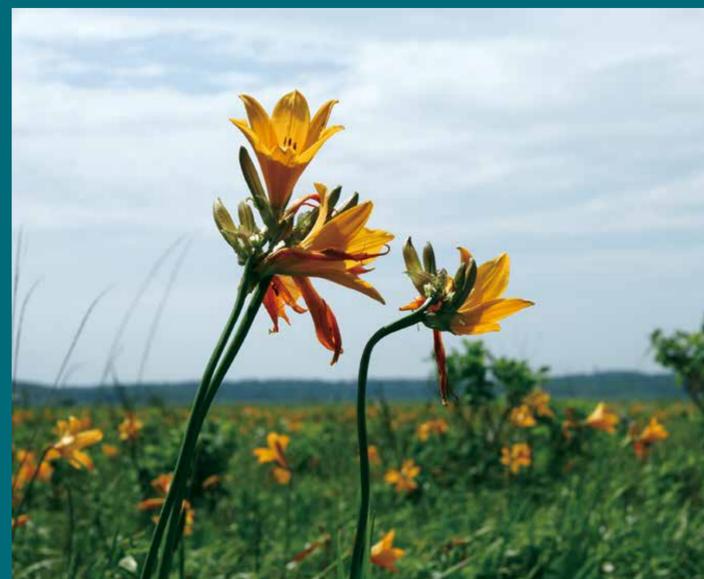
概要

名称	霧多布湿原
所在地	浜中町
規模	3,168ha
種別等	自然公園(厚岸道立自然公園)
指定年	1955年(昭和30年)道立公園に指定
保全活動開始	1986年(昭和61年)

1922年(大正11年)に湿原の核心部は「霧多布泥炭形成植物群落」として、国の天然記念物に指定される



琵琶瀬木道から湿原の植物を観察できる



初夏に見頃を迎えるエソカンゾウの群落